キャリア教育に関する研究

―自らのキャリアをデザインできる子どもたちの育成を目指して―

高知県立大方高等学校　教諭　中村佳子

一人一人の子どもたちが自分に自信を持ち、そして将来の夢や希望を描きながら生きていくためには、キャリア教育の観点に立った教育活動が必要であると考える。近年、キャリア教育は、少しずつ広まってきたものの、各学校でどのように取り組んでいけばいいのか、まだまだ課題が多いと思われる。そこで、教員誰もが活用できる支援ツールがあれば、キャリア教育を実践していくきっかけになるのではないかと考えた。

在り方・生き方教育であると言われているキャリア教育の中でも、自分の未来を想像し描ける力、すなわちキャリアをデザインする能力を育成することに注目し、さらに小・中・高と発達段階に応じて活用できる支援ツールを作成した。

キーワード：キャリア教育、発達段階、小・中・高等学校の連携、キャリアデザイン、支援ツール

1　はじめに

自分に自信が持てない子どもたちや、何となく学校に来ている子どもたち、またどういう進路を歩めばいいのか分からない子どもたちなど、自分の在り方や自分の進むべき道が分からずに困っている子どもたちの増加が問題となっている。[1]どうすれば子どもたちが自信を持ち、どうやったら子どもたちは自分のやりたいことを見つけられ、どうなれば子どもたちが生き生きと過ごすことができるのか。

また学校を卒業した子どもたちのうち、社会に出た後も、同じような悩みを持って過ごしている子どもたちがたくさんいる現状がある。[2]このような子どもたちにとって何が必要なのか。子どもたちのために、私たち大人はいったい何ができるのだろうか。

一人一人の子どもたちが自分に自信を持ち、そして将来の夢や希望を描きながら生きていくためには、キャリア教育の観点に立った教育活動が必要であると考える。近年、キャリア教育は少しずつ広まってきたものの、各学校でどのように取り組んでいけばいいのか、まだまだ課題が多く見受けられる。[3]そこで教員誰もが活用できる支援ツールがあれば、キャリア教育を実践して行くきっかけになるのではないかと考えた。

そこで、在り方・生き方教育であると言われているキャリア教育で育成する諸能力の中でも、自分の未来を想像し描ける力、すなわちキャリアをデザインする能力に注目し、さらに小・中・高と発達段階に応じて活用できる支援ツールを作成した。具体的には２つの支援ツールであり、１つは子どもたちが将来よりよく生きていくために、力や考え方を身につけていくためのキャリアデザインノートの作成。もう１つは、子どもたちを支援していくための、教員マニュアルノートの作成。以上２点の作成を計画した。

2　研究目的

キャリアデザインノートとそのマニュアルノートを作成し、発達段階ごとにそれらを活用することによって、子どもたちは自分に自信を持ち、そして自分の未来を想像し描けるようになるのではないか。

3　研究内容

(1)　基礎研究

ア　進路指導の現状と諸課題

受験前の中学校３年生の子どもたちに、学校でどんなことを指導して欲しかったか、と尋ねた調査を行っている。私たち教員は、高校など上級学校へ合格可能性を、子どもたちが望んでいると考えがちであるが、実は、自分の個性や適性を考える学習をして欲しかったと感じている子どもたちの方が、高校など上級学校への合格可能性を望む子どもたちよりも多くいることが分かる（図１）。また、中学校を卒業し、高校を合格した子どもたちにも同じ調査を行っているが、高校受験終了後の子どもたちも、受験前の子どもたちと同じように、上級学校への合格可能性よりも、自分の個性や適性を考える学習をして欲しかったと回答した子どもたちが、多くいたことが分かる（図２）。さらに保護者にも、中学校の進路指導に何を期待しているのかという調査結果を見てみると、自分の子どもには自分の個性や適性を理解するための学習をして欲しい、あるいは、学ぶことや働くことの意義を考えさせる学習をして欲しい、ということを学校に期待していることが分かる。（図３）

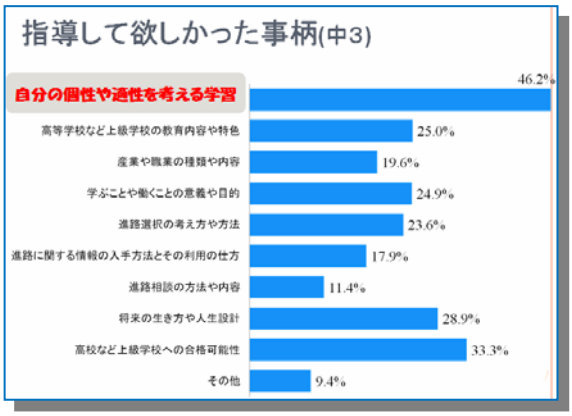
一方、学校への調査結果を見ると、保護者は自分の子どもがどんな進路を選ぶのか、またどこに進学できるのか、あるいはどこに就職できるのかということばかり学校に望んでいるので困っている、という回答が多く出ており（図４）、ここに子どもや保護者と、教員との考えが大きく乖離していることが問題であることが明らかになった。

イ　キャリアカウンセリングに関する研究

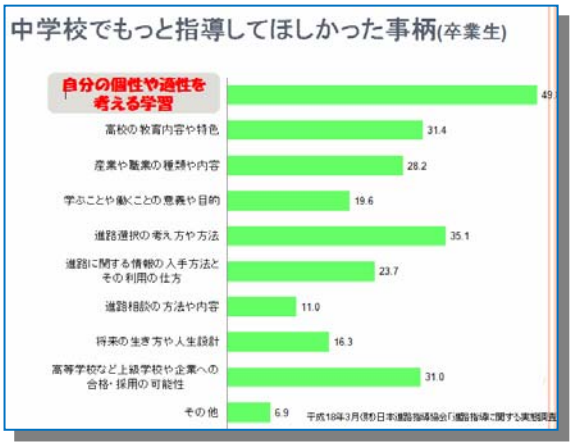
(ｱ)　キャリア・コンサルティング講習

CADS（キャリア開発シート）と CADI（環境変化自己診断ツール）を活用し、自分自身のキャリアについて自己分析をした。これらは自己理解（価値観・動機・能力）を得るためのツールではあるが、社会で働いた経験のある者が対象のため直接生徒たちに活用することは難しい。しかし、これまでのキャリアや、これから進むべき方向性を気付くことができる、有効なツールである。

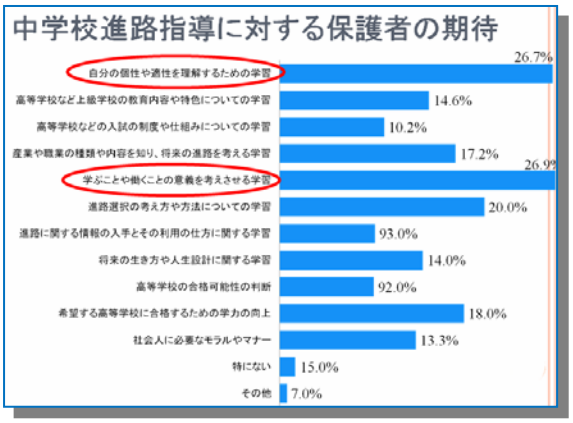
私たち大人であっても自分を振り返り、そして私は何者なのか、私は何をしたいのか、そのために何をしたらいいのかをじっくり考え、自分自身と向き合い、気付きを深めることを必要



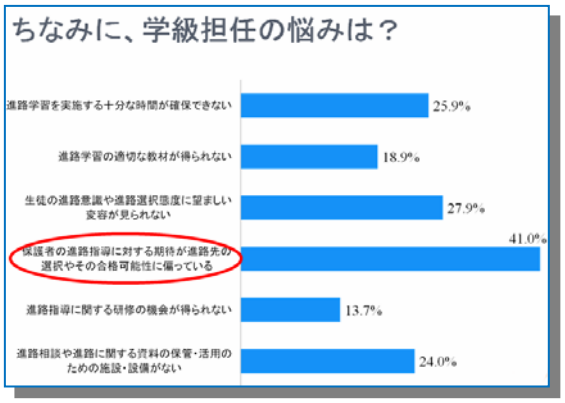
【図１　指導して欲しかった事柄（中3）】



【図２　中学校で指導して欲しかった事柄（卒業生）】



【図３　中学校進路指導に対する保護者の期待】



【図４　学級担任の悩み】

としている。それに比べてまだ数年、あるいは十数年しか生きていない子ども達にとって、自分は何者であるのか、自分の強みや弱みに気付くことや、自分がどのように生きていきたいのかを考えていくことへの支援は必要であると考える。

ウ　キャリアデザインに関する研究

キャリアデザインの「キャリア」は自分の人生そのものであり、「デザイン」は想像することであることから、キャリアデザインとは、自分の生き方全体のプランを描き、自分らしく作り上げていくことであると言える。自分が生きていくその過程にやってくる節目や移行期に、方向を見失わないようにするためには、見通しを立てることが大切である。見通しを立てると、偶然や出会いの中での新たな発見に気付きやすいと言われており、それは自分の進みたい方向が定まっているため、主体的な選択が働いていると考えられる。自分が関心を持っているものや求めているものは発見されやすく、そうでないものは近くにあっても見逃されてしまうことが多い。このような、自分の感心や望んでいることを明確にしておくことで、そのチャンスといつ遭遇しても良い状態に保つこと（「レディネス状態」）ができる。子ども達にキャリアをデザインする力をつけ、発達段階に応じた「レディネス状態」を作ることが重要である。

(2)　実践研究

ア　「キャリアデザインノート」の作成＜小・中・高等学校用＞

(ｱ)　５つの柱

自分のキャリアをデザインできる子どもたちの育成を目指して、キャリアデザインノートを作成するにあたり、次の５つを柱とした。またこの柱は、子どもだけでなく大人にとっても、必要な柱だと考える。

a　「今までの自分を振り返る」過去にどんな経験をし、どんなことを選択して今まで生きてきたのか、今までの自分を振り返る。

b　「自分とは何かを考える」自分はどんな人間なのか、自分はどうありたいのか、他人は自分をどう見ているのか、というような自分をイメージすることや、自分を理解することは、キャリアデザインの中で一番大切なことだと言われている。

c　「働くことを理解する」いずれ経験する社会や働くことについて興味を持ち、肯定的に考えていくために、働くことを理解する。また近年、仕事の内容や仕事のやり方、そして仕事を行う場所などが、急速に変化してきている。このように仕事をする環境の変化が激しい中、自分の未来を考える時に、働くことを理解することは重要であると考える。

d　「夢を描く」自由に自分の人生を夢見る体験を重ねていくことは、子どものキャリア形成において重要であり、夢見る体験を通じて、「注目を集める人になりたい」とか、「困っている人を助けてあげたい」というような、自分の価値観に合った夢を見ることができる。こうしたことが、生きていく力の種となり、将来に向かって進んでいくことができると考えられる。

e　「社会との結びつきを考える」子どもたちは将来、激しく変化する社会を生きていかなければならない。自分の未来は現在に通じていて、現在をどのように生きるかによって、未来が方向付けられる。その時、現在、何のために学んでいるのか、その学びは将来、社会に出て、どのような力を発揮するのか知っておくことが肝心である。また自分の未来と、現在の学習とが結びつけば、更に学ぶ意欲も湧いてくると思われる。

(ｲ)　５つの柱の目的と子どもたちへのメッセージ

５つの柱に関して、それぞれのワークシートを作成していくときの目的と子どもたちへのメッセージを示した。なおメッセージは、１つ１つのワークシート毎に、教員マニュアルノートに載せてあり、一時間の授業の到達目標ともなる。

a　今までの自分を振り返る

過去の自分を見直し、自分自身を客観的に眺められること。また、現在の自分との比較や、新たな自分の発見などから自分を肯定的に考えられることを目的とする。子どもたちへ、「今までよりももっと自分のことを知ることができた。」、「生まれてから色々な経験や変化を経て、今の自分がいるんだな。」、「過去の色々な経験や出来事が、未来の自分に繋がっていくんだな。」ということをメッセージとして伝える。

b　自分とは何かを考える

自分のモデル探しをし、憧れる人や憧れる姿をイメージできること。自分の能力や適性、興味等、自分自身を肯定的に理解できること。自分の価値観を作り出すことを、目的とする。子どもたちへ、「自分が思っていた自分とは違う自分や、今まで気付かなかった自分に気付けた。」「私のことをきちんと見てくれていた友達がいるんだ。」、「今日の授業前よりも、自分が好きになり、自分に自信が持てるようになった。」ということをメッセージとして伝える。

c　働くことを理解する

人はなぜ働くのか、様々な職業や働く人の気持ちを理解し、働くことを肯定的に考えられること。働く目的を考え、自分に合った職業を選びながら、将来の働き方をイメージし、行動できることを、目的とする。子供たちへ、「身近にたくさんの働く人や仕事があって、自分たちはたくさんの人たちにささえられているんだ。」、「職業を詳しく調べてみると、自分が思っていたイメージとは大きく違っていた。」、「人によって、働く目的や重視する事柄が違っても構わないんだ。」ということをメッセージとして伝える。

d　夢を描く

夢や希望を持ち、自分の将来の生き方を考え、人に伝えられること。自分を生かすことのできる在り方・生き方を現実的に考えられることを、目的とする。子どもたちへ、「私の目指すものがハッキリしてきて、やる気が出てきた。」、「夢をかなえるためには、自分でしっかりと計画を立てなければならないと感じた。」、「夢をかなえることのできる自分に近づくには何をすればよいのか、もっと詳しく知りたい。」ということをメッセージとして伝える。

e　社会との結びつきを考える

今、学んでいることや自分自身、そして自分の夢が社会とどう結びついているのかを理解できること。自らの一生を具体的・現実的に描き、自分の未来に希望を持つことを、目的とする。子どもたちへ、「毎日こんなにたくさんの人にお世話になっているんだ。」、「世の中には様々な生き方があり、自分の生き方を選ぶことができるんだ。」、「今から、自分が何を大切にしたいのかを、しっかりと持っておかなければいけないな。」ということをメッセージとして伝える。

(ｳ)　発達課題

発達段階に応じて、小・中・高校用のキャリアデザインノート作成していくため、発達過程を追いながら段階ごとにどのような課題があるのかを研究した。そして、キャリアデザインノートの柱となる５つの項目に関する発達課題にまとめた。

a　「今までの自分を振り返る」、「自分とは何かを考える」小学校段階では、自己や他者に対して積極的な関心を持つ。中学校段階では、肯定的な自己理解や自己有用感を獲得する。そして高校段階では、自己理解を深め、自己受容できだす時期である。

b　「働くことを理解する」小学校段階では、身のまわりの仕事や環境に対して、関心・意欲を向上させる。中学校段階では、自分の興味・関心や、職業に対する選択基準を形成する。そして高校段階では、自己の選択基準となる人生観や職業観・勤労観等を身につける時期である。

c　「夢を描く」小学校段階では、夢や希望を描き、憧れる自己イメージを獲得する。中学校

段階では、生き方や進路に関して現実的に調べ、そして高校段階では、現実を良く知り、積極的に試す時期である。

d　「社会との結びつきを考える」小学校段階では、働くことに価値を見出し、目標に向かって努力する。中学校段階では、暫定的な進路計画を立てる。そして高校段階では、将来設計を立て、社会への移行準備をする時期である。

(ｴ)　活用の３つの柱

a　「アウトプット」自分の考えを、文字や言葉にして外へ出していく。言語化することで、改めて自分の考えに気付き理解を深めることができる。

b　「フィードバック」人の意見を聞く。人の考え方を知ることで、人と自分との違いに気付くことができ、その違いから自分の持つ価値観がどんなものなのか、気付くことができる。

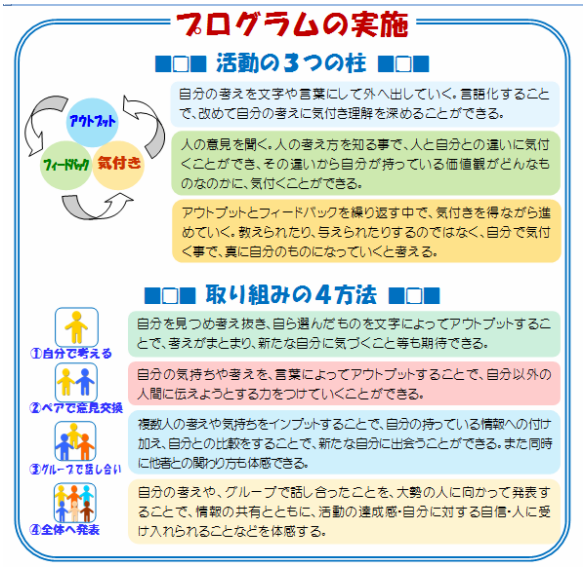
c　「気付き」アウトプットとフィードバックを繰り返す中で、気付きを得る。教えられたり、与えられたりするのではなく、自分で気付くことで、本当に自分のものにしていく。

(ｵ)　取り組みの４方法

a　「自分で考える」自分を見つめ考え抜き、自ら選んだものを文字によってアウトプットすることで考えがまとまり、新たな自分に気づくことも期待できる。

b　「ペアで意見交換」自分の気持ちや考えを、言葉によってアウトプットすることで、自分以外の人間に伝えようとする力をつけていくことができる。

c　「グループで話し合い」複数人の考えや気持ちをインプットすることで、自分の持っている情報へ付け加え、自分との比較をすることで、新たな自分に出会うことができる。また同時に他者との関わり方も体感できる。



【図５　教員マニュアルノート】

d　「全体へ発表」自分の考えや、グループで話し合ったことを、大勢の人に向かって発表することで、情報の共有とともに、活動の達成感・自分に対する自信・人に受け入れられることなどを体感する。なお、活用の３つの柱と、取組の４方法は、一目で分かりやすくするために図式化した（図５）。

(ｶ)　動機付けと振り返り

ワークシートに取り掛かる前に各活動の動機付けとして、学習目的・学習内容・学習ポイント・事前チェックの４つを表示した。特に事前チェックでは、学習前に簡単な質問項目にチェックし、自分の行動や考え方の現在の位置を確認することで、授業のねらいとする部分を意識しながら活動できることを期待して設定した。

そして各活動の最後では、一時間の活動を５分程度で振り返ることができる振り返りのページを記載した。授業後の振り返りとして、授業で一番心に残ったこと・事後チェック・学習内容についての、大きく３項目とした。授業で一番心に残ったことは、自分の気持ちを具体的に書きやすいように、うれしかったことや発見したこと、意外だったことや挑戦したことなどの８つの項目から選んで書き込む形とした。事後チェックは、活動の目標としている「アウトプット」、「インプット」、「気付き」が得られたかどうかを振り返り、「はい」か「いいえ」にチェックをする形とした。学習内容は、学習した事柄・学習内容はどんな場面で役立つか、なぜこの授業を学ぶ必要があったかに答えるようにした。これは、子どもにとっては授業をした後に繋げていくために、そして教員にとっても、子供たちの記入内容をみるこ

とで、伝えたいことが上手く伝わったのか、どのような伝わり方をしたのか、子どもたちがどのように受け取ったのかを知ることができる。

イ　「教員マニュアルノート」の作成＜小・中・高等学校用＞

子どもたちの活動を支えていくために、教員用のマニュアルノートを作成した。記載内容は、活動のねらい・子どもたちへのメッセージ・活動の流れとその詳細・準備に関することの４点である。そしてキャリア教育を行っていく中で、教員自身が自分の経験を語り、自分が子どもの頃に考えていたこと、描いていた夢を語ることが大切であると考え、各活動の導入部分に教員の体験談等を紹介する時間を入れている。

振り返りシートでは、教員自身の授業に関して、子どもたちに関して、プログラムに関して、感想の大きく４項目とした。特に、プログラムに関する振り返りでは、時間配分やプログラムの中で良かった点、改善点等を具体的に書きとめておくようにした。これは、授業回数を重ねるごとにプログラムの内容が改善され、自分も含めた先生方が、次回活用する際に改善した内容で授業を行うことによって、子どもたちにとってより良いプログラムになっていくことを目指す。

ウ　支援ツールの活用

このようなワークシートを、５つの柱を元に、各発達段階に応じて小・中・高等学校まで順に、活用していく。なお、各ワークシートは、それぞれの子どもたちや実施時期に応じて、必要であると思われる内容のワークシートを選んで実施していく。そして目の前の子どもたちに有効であると思われるワークシートは、何回でも繰り返して活用可能である。

(4)　研究のまとめ

キャリアデザインノートと、教員マニュアルノートの活用によって、私たち教員は、子どもたちにとって何が大切かを考えながら支援していくことができ、子どもたちは自分に自信を持ち、そして自分の未来を想像し描けるようになると期待する。

今後は、このキャリアデザインノートを、キャリア教育の１つの支援ツールとして多くの先生方や学校で活用できるように、インターネット上に掲載をし、さらに活用した先生方からフィードバックをいただき、改善を繰り返しながら、長いスパンで取り組んでいきたいと考えている。

しかしキャリア教育は、これをやったからキャリア教育をやっているというものではなく、キャリアデザインノートは、あくまで１つのアイテムとして、１つの考え方として、キャリア教育を取り組むきっかけになればと思い作成した。

キャリア教育は何かをすることが目的ではなく、目の前の子どもたちをどのように育てていきたいのか、そのためには、子どもたちにどんなことを発見させ、何に気付かせてあげればいいのかという、子どもたちとの関わりの中での私たち大人の想いが大切であると思う。そのために、まずはキャリア教育についてみんなで理解することが先決であり、目の前の子どもたちにあったキャリア教育は何か、ということをみんなで考えていくことが大切である。そしてキャリア教育の観点で、目の前の子どもたちにどう関わっていくといいのかを、子どもたちに関わる大人みんなで真剣に考えながら、子どもたちと向き合っていくことが大切であると考える。

5　おわりに

キャリア教育は、特定の年齢、特定の大人だけで行われるものではなく、できるだけ早い段階から発達段階に応じて、子どもたちに関わる大人みんなで取り組んでいくものである。そしてこれをやったからキャリア教育ができたといったような答えがあるものではなく、子どもたちや学校、そして地域に応じて実施していくものだと考える。大切なことは、家庭・地域・学校など、子どもたちの周囲にいる大人たちが、一人一人の子どもとどのように関わっていけばよいのかを真剣に考え、向き合っていくことである。キャリア教育とは何か、明確な共通理解がなされたうえで、それぞれの立場でお

互いの役割分担や目指すものを知り、共通する部分を連携しながら進めていくことが必要だと考える。

今後の課題として、作成したツールが本当に効果のあるものかどうか、小・中・高等学校と連携しながら長期的に活用し、改善しながら取り組んでいきたい。しかし、本当にやっていかなければならないのは、様々な活動を通して子どもたち一人一人が新たな発見をし、自分の人生を考えるきっかけ作りをすることだと考える。また子どもたちに関わる一番身近な社会人である大人は、子どもたちにとって何が大切なのか、ということにまず気付くこと、そしてものの見方や話し方、感じ方や接し方など、一つずつ変わっていかなければならないと感じる。そして社会に出て幸せに生きていくことのできる子どもたちを送り出していけるように、学校へ戻ったら、私自身がキャリア教育の発信源となり、そしてコーディネート役として実践していくこと、そして学校を変えていくことが、今後の一番の課題である。

---

[1] ３月末時点での高知県公立学校高校生の進路未決定者に関する調査によると、平成 16 年３月卒業者の進路未決定者の割合は 4.8%（305 名）、平成 17 年３月卒業者の進路未決定者の割合は 4.6%（274 名）、平成 18 年３月卒業者の進路未決定者の割合は 6.8%（389 名）、平成 19 年３月卒業者の進路未決定者の割合は 5.6%（321 名）である。（高知県高等学校就職対策連絡協議会の調べより）

[2] 離職率推移を、高知県と全国とを比較してみると、就職して３年間で離職する早期離職者が問題となっているが、特に高知県は、就職して１年目での離職者が多いことが問題となっている。平成 16 年３月卒業者の１年目の離職率は、全国 24.9%に対し、高知県は 31.2%。平成 17 年３月卒業者は、全国 24.8%に対し、高知県は 30.6%と、非常に高い割合となっている。（労働局職業安定局・労働市場センター資料より）

[3] 「自校のキャリア教育の推進に当たって直面している課題」「今後キャリア教育推進のために取り組んでいったらよい内容」という質問項目に対して、具体的な推進方法や、小中高と連携して取り組める内容や方法など知りたいという回答が複数みられた。（平成 18 年８月に高知県で行われたキャリアカウンセリングセミナーで行われた事前アンケートおよび事後アンケートより）

引用・参考文献

・秋田稲美「ドリームマップ」株大和出版、2006年
・「誰にも分かるキャリア教育のテーマ50」学事出版、2005年
・「小学校・中学校・高等学校キャリア教育推進の手引」文部科学省、2007年
・「高等学校におけるキャリア教育の推進に関する調査研究協力会議報告書」文部科学省、2007年
・橋本浩「ポケット図解発達心理学がよ～くわかる本」秀和システム、2006年
・藤沢優月「図解夢をかなえる人の手帳術」ディスカヴァー・トゥエンティワン、2005年
・スパート・イールズ＝ホワイト「質問力ノート」ディスカヴァー・トゥエンティワン、2004年
・諸富祥彦「7つの力を育てるキャリア教育」図書文化社、2007年
・「構成的グループエンカウンター辞典」図書文化社、2007 年
・「職場で活かすキャリア・サポート」中央職業能力開発協会、2007年
・「企業探求プログラムコーポレートアクセスコース」株式会社教育と探求者、2006年
・小林伸二「よのなか科ワークシート」正進社
・「親と子の夢ポートフォリオ」実業之日本社
・「たのしい進路スタディノート」実業之日本社
・岩崎隆「キャリアガイダンス」リクルート
・「キャリアカウンセラー養成講座」日本マンパワー
・小島貴子「正しい「未来」の選び方」成美堂出版、2009 年